

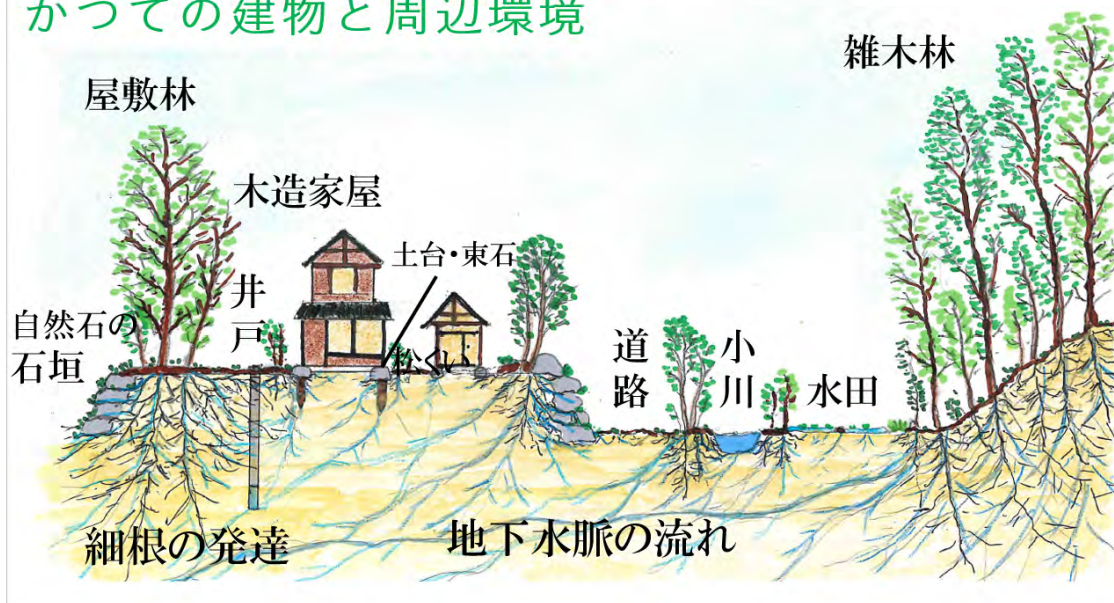
建物をめぐる環境の劣化と再生の手法

①かつての建物と周辺環境には、水と空気の循環が保たれていた

- *木造の家屋に束石の基礎
- *自然石の石垣
- *自然豊かな小川があり、周辺には雑木林があった

➤ 「土中には適度な隙間があり、空気と水の循環が保たれていた」

かつての建物と周辺環境



②現代の建物と周辺環境では、空気と水の循環が滞っている

- *鉄筋コンクリート造りの建築に、ベタ基礎、コンクリート擁壁。
- *雑木林や田畑を開発、造成し、宅地へ。
- *小川は3面張りのコンクリート水路になり、周囲の道はアスファルト舗装に。

➤ 「土壌は目詰まりを起こし、空気と水の循環が滞る」

現代の建物と周辺環境



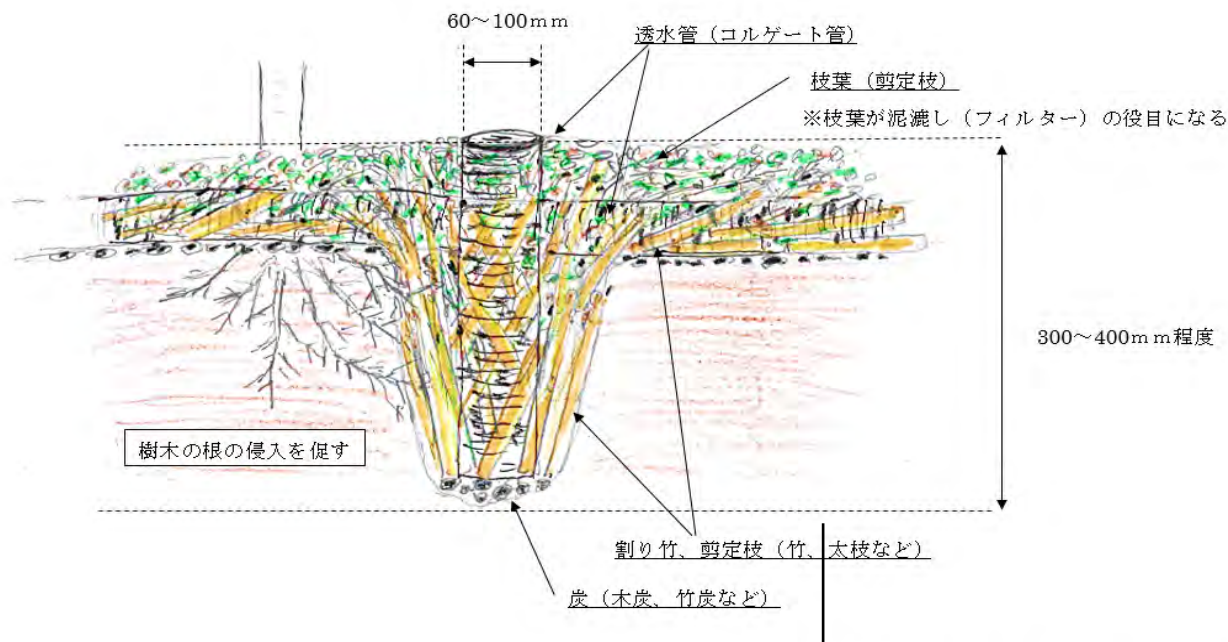
*土壌は目詰まりを起こし、空気と水の循環が滞る・・・

③結果として、日本中で自然環境・住環境の悪化が起きている。

- ・住宅地の環境 → 水はけの悪い庭が増えて、土は腐る（グライ土壌） → 木々が弱る
- ・里山、山林 → 竹藪は暴れ、山林は赤松が枯れ、土砂崩れが起きる
- ・豊かな自然だった環境も、無機質で人工的な空間が増え、人々の暮らしもストレスが増える。

◆通気浸透水脈改善の提案：土中の滞った空気を動かし、水脈を蘇らせる

通気浸透水脈 断面図



※穴の深さや透水管の径は、現場土壌の状況により調整

◎空気と水の循環を再生すれば、現代の都市環境も改善することができる。

